

本資料のうち、枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 工事計画審査資料	
資料番号	KK7補足-028-7 改2
提出年月日	2020年9月11日

加振試験について

2020年9月

東京電力ホールディングス株式会社

目 次

1. 概要	1
2. 加振試験の概要	3
3. 機能維持評価用加速度の設定について	105

1. 概要

耐震計算に用いる機能確認済加速度のうち、V-2-1-9「機能維持の基本方針」に示す動的機器の機能確認済加速度以外のものについては、メーカー等において確認している加振試験に基づく値を用いている。

本資料は、機能維持評価のうち、

- ・ 動的機能維持評価
- ・ 電氣的機能維持評価
- ・ 止水性の維持評価

に用いた機能確認済加速度を取得した、メーカー等において確認している加振試験の概要を補足説明するものである。

「2. 加振試験の概要」に、機能維持評価に用いた機能確認済加速度を取得した加振試験の概要（加振方法、入力波、加振振動数等）について示す。

「3. 機能維持評価用加速度の設定について」に、機能維持評価に用いた機能維持評価用加速度の、機能確認済加速度を取得した加振試験の体系を踏まえた設定方法について示す。





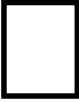











なお、本資料以外で加振試験に関する説明を行っている補足説明資料を以下の表 1-1 に整理し、各補足説明資料にて説明を行っている加振試験の概要は本資料には含めない。

表 1-1 加振試験に関する補足説明資料リスト

資料番号	資料名	備考
KK7 補足-028-4	動的機能維持の詳細評価について（新たな検討又は詳細検討が必要な設備の機能維持評価について）	—
KK7 補足-028-8	浸水防護施設の耐震性に関する説明書の補足説明資料	サブドレンポンプ フラップゲート
KK7 補足-028-9	可搬型重大事故等対処設備の耐震性に関する説明書に係る補足説明資料	車両型設備 その他設備
KK7 補足-028-10 -11	高圧代替注水系ポンプの耐震性についての計算書に関する補足説明資料	—
KK7 補足-028-10 -14	ドレン移送ポンプの耐震性についての計算書に関する補足説明資料	—
KK7 補足-028-10 -15	第一ガスタービン発電機の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	—
KK7 補足-028-10 -21	燃料取替床ブローアウトパネル閉止装置の耐震性について	—
KK7 補足-028-10 -30	遠隔手動弁操作設備の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	—
KK7 補足-028-10 -31	5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	—
KK7 補足-028-11 -2	電源盤・制御盤消火設備のうち配管の加振試験について	—
KK7 補足-028-11 -3	ケーブルトレイ消火設備のうち配管の加振試験について	—

2. 加振試験の概要

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
地下水排水設備水位	V-2-2-別添 1-2-4	電極式水位検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること
サブドレン動力制御盤	V-2-2-別添 1-2-5	サブドレン動力制 御盤 【B】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること
地下水排水設備水位	V-2-2-別添 1-3-4	電極式水位検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
サブドレン動力制御盤	V-2-2-別添 1-3-5	盤内の器具  【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. サインビート波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 :  鉛直 : 	加振後に正常 に動作すること
使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA)	V-2-4-2-3	熱電対 【C】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 :  鉛直 : 	加振後に正常 に動作すること
使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域)	V-2-4-2-4	熱電対 【C】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 :  鉛直 : 	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
使用済燃料貯蔵プール監視カメラ	V-2-4-2-5	赤外線カメラ 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置	V-2-4-2-6 (1)	空冷装置 ・冷却器 ・コンプレッサ 【B】	地震後の動的機能	水平 2 方向と鉛直の 3 方向同時	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□(X方向)、□(Y方向)、□(Z方向)であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置	V-2-4-2-6 (2)	エアクーラ 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
原子炉圧力	V-2-6-1(1)	弾性圧力検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振中及び加振後に正常に動作すること
原子炉水位（狭帯域）	V-2-6-1(2)	差圧式水位検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振中及び加振後に正常に動作すること
原子炉水位（広帯域）	V-2-6-1(3)	差圧式水位検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振中及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
格納容器内圧力	V-2-6-1(4)	弾性圧力検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振中及び加振後に正常に動作すること
		弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振後に正常に動作すること
原子炉系炉心流量	V-2-6-1(5)	差圧式流量検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振中及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
制御棒駆動機構充てん水圧力	V-2-6-1(6)	弾性圧力検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振中及び加振後に正常に動作すること
サブプレッションチェンバプール 水位	V-2-6-1(7)	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
		差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
地震加速度	V-2-6-1(8)	地震加速度検出器 【A】	地震時の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振中に正常に動作すること
主蒸気管トンネル温度	V-2-6-1(9)	熱電対 【A】	地震時の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (X 方向), <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> (X 方向), <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振中に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
主蒸気管流量	V-2-6-1 (10)	差圧式流量検出器 【A】	地震時の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振中に正常に動作すること
高压炉心注水系ポンプ吐出圧力	V-2-6-5-3	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
残留熱除去系ポンプ吐出圧力	V-2-6-5-4	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
残留熱除去系熱交換器入口温度	V-2-6-5-5	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
残留熱除去系熱交換器出口温度	V-2-6-5-6	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
復水補給水系温度（代替循環冷却）	V-2-6-5-7	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
残留熱除去系系統流量	V-2-6-5-8	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
原子炉隔離時冷却系系統流量	V-2-6-5-9	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
高圧炉心注水系系統流量	V-2-6-5-10	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
高压代替注水系統流量	V-2-6-5-11	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
復水補給水系流量 (RHR A 系代替注水流量)	V-2-6-5-12	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
復水補給水系流量 (RHR B 系代替注水流量)	V-2-6-5-13	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2 *3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
原子炉圧力	V-2-6-5-14	弾性圧力検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振中及び加振後に正常に動作すること
原子炉圧力 (SA)	V-2-6-5-15	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振後に正常に動作すること
原子炉水位 (広帯域)	V-2-6-5-16	差圧式水位検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振中及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
原子炉水位 (燃料域)	V-2-6-5-17	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
原子炉水位 (SA)	V-2-6-5-18	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
格納容器内圧力 (D/W)	V-2-6-5-19	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
格納容器内圧力 (S/C)	V-2-6-5-20	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
ドライウェル雰囲気温度	V-2-6-5-21	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
サブプレッションチェンバ気体温度	V-2-6-5-22	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
サブプレッションチェンバプール 水温度	V-2-6-5-23	測温抵抗体 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること
格納容器内酸素濃度	V-2-6-5-24	熱磁気風式酸素検 出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること
格納容器内水素濃度	V-2-6-5-25	熱伝導式水素検出 器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
格納容器内水素濃度 (SA)	V-2-6-5-26	水素吸蔵材料式水素検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
復水貯蔵槽水位 (SA)	V-2-6-5-27	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
復水補給水系流量 (格納容器下部注水流量)	V-2-6-5-28	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
サブプレッションチェンバプール 水位	V-2-6-5-29	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること
格納容器下部水位	V-2-6-5-30	電極式水位検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること
原子炉建屋水素濃度	V-2-6-5-31	熱伝導式水素検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□(X, Y 方向), □(Z 方向)であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □(X, Y 方向), □(Z 方向)における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
ATWS 緩和設備 (代替制御棒挿入機能) ・検出器	V-2-6-7-1 (1)	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
		弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
ATWS 緩和設備 (代替制御棒挿入機能) ・ATWS 緩和設備制御盤	V-2-6-7-1 (2)	盤内の器具 □ 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
ATWS 緩和設備 (代替制御棒挿入機能) ・代替制御棒挿入機能用電磁弁	V-2-6-7-1 (3)	電磁弁 【A】	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
ATWS 緩和設備 (代替冷却材再循環ポンプ・トリップ機能) ・検出器	V-2-6-7-2 (1)	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電気的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
ATWS 緩和設備 (代替冷却材再循環ポンプ・トリップ機能) ・原子炉冷却材再循環ポンプ可変周波数電源装置主回路	V-2-6-7-2 (2)	盤内の器具 □ 【A】	地震後の電気的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
ATWS 緩和設備 (代替冷却材再循環ポンプ・トリップ機能) ・原子炉冷却材再循環ポンプ可変周波数電源装置制御盤	V-2-6-7-2 (3)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること
代替自動減圧ロジック (代替自動減圧機能) ・検出器	V-2-6-7-3 (1)	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能） ・安全系多重伝送盤	V-2-6-7-3 (2)	盤内の器具 □ 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□ ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 □ 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□ ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2 *3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能） ・安全系補助継電器盤 (H11-P652)	V-2-6-7-3 (3)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること
代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能） ・安全系補助継電器盤 (H11-P653)	V-2-6-7-3 (3)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
ESF 盤	V-2-6-7-4 (1)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2 *3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
安全保護系盤	V-2-6-7-4 (2)	盤内の器具 [] 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2 *3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
中央制御室外原子炉停止制御盤	V-2-6-7-4 (3)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. メーカー試験 (カタログ値) により、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
中央運転監視盤	V-2-6-7-4 (4)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること
運転監視補助盤 (H11-P703)	V-2-6-7-4 (5)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
運転監視補助盤 (H11-P704)	V-2-6-7-4 (5)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 ($\times 9.8 \text{ m/s}^2$)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [] (X 方向), [] (Y 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p> <p>3. サインビート波加振試験 [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
原子炉系記録計盤	V-2-6-7-4 (6)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
格納容器補助盤	V-2-6-7-4 (7)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること
高压代替注水系制御盤	V-2-6-7-4 (8)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 監視制御盤	V-2-6-7-4 (9)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X,Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] (X,Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
格納容器圧力逃がし装置制御盤	V-2-6-7-4 (10)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X 方向), [] (Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] (X 方向), [] (Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2 *3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [A]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] (X 方向), [] (Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [A]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [A]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
フィルタ装置出口放射線モニタ 前置増幅器盤	V-2-6-7-4 (11)	前置増幅器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□(X,Z 方向), □(Y 方向)であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動作すること
起動領域モニタ前置増幅器盤	V-2-6-7-4 (12)	前置増幅器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振中及び加振後に正常に動作すること
核計装系盤	V-2-6-7-4 (13)	盤内の器具 □ 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □ ※下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること
安全系プロセス放射線モニタ盤	V-2-6-7-4 (14)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. メーカー試験 (カタログ値) により、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
格納容器内雰囲気モニタ盤	V-2-6-7-4 (15)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 <input type="text"/> 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (X 方向), <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> (X 方向), <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 <input type="text"/> 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
格納容器内水素モニタ盤	V-2-6-7-4 (16)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X 方向), [] (Y, Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X,Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [] (X,Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X 方向), [] (Y,Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [] (X 方向), [] (Y,Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
事故時放射線モニタ盤 (H11-P609-1)	V-2-6-7-4 (17)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
事故時放射線モニタ盤 (H11-P609-2)	V-2-6-7-4 (17)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
使用済燃料貯蔵プール監視カメラ制御架	V-2-6-7-4 (18)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること
データ伝送装置	V-2-6-7-5 (1)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (Y 方向), [] (X, Z 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] (X, Z 方向), [] (Y 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
安全パラメータ表示システム (SPDS) (6,7号機共用) ・緊急時対策支援システム伝送装置	V-2-6-7-6 (1)	盤内の器具 <input type="text"/> 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (X 方向), <input type="text"/> (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (X 方向), <input type="text"/> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 <input type="text"/> 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (X, Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> (X, Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X, Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [] (X, Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X 方向), [] (Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [] (X 方向), [] (Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X,Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常 に動作すること
安全パラメータ表示システム (SPDS) (6,7 号機共用) ・ SPDS 表示装置	V-2-6-7-6 (2)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (Y 方向), [] (X 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] (X,Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (Y 方向), [] (X 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] (Y 方向), [] (X, Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること
安全パラメータ表示システム (SPDS) (6,7号機共用) ・メッシュ型アンテナ 1,2	V-2-6-7-6 (3)	メッシュ型アンテナ (アンテナ取付架台との取合部を含む) 【B】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 32.88Hz (X 方向), 32.73Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 32.88Hz (X 方向), 32.73Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: 3.96 鉛直: 2.32	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
安全パラメータ表示システム (SPDS) (6,7号機共用) ・通信収容架 1	V-2-6-7-6 (4)	盤内の器具 ・L 2 スイッチ装置① ・L 2 スイッチ装置② ・ファイアウォール装置 ・配線用遮断器 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 5.12 鉛直 : 2.31 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・メディアコンバータ 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3.17 鉛直 : 3.11 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
安全パラメータ表示システム (SPDS) (6,7号機共用) ・通信収容架 2	V-2-6-7-6 (4)	盤内の器具 ・ファイアウォール装置 ・L 2 スイッチ装置 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 5.12 鉛直 : 2.31 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・メディアコンバータ 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3.17 鉛直 : 3.11 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
データ伝送設備	V-2-6-7-7	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (Y 方向), [] (X 方向), [] (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [] (Y 方向), [] (X 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X,Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [] (X,Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 <input type="text"/> 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (X,Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> (X,Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 <input type="text"/> 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (X 方向), <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (Z 方 向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> (X 方向), <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X,Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること
データ表示装置 (中央制御室待避室)	V-2-6-7-8	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (Y 方向), [] (X 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] (X,Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (Y 方向), [] (X 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] (Y 方向), [] (X, Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること
衛星電話設備 (常設) ・アンテナ	V-2-6-7-9 (1)	アンテナ (アンテナ取付架台との取合部を含む) 【B】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上 (X, Z 方向), 17.02Hz (Y 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz (X, Z 方向), 17.02Hz (Y 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: 4.35 鉛直: 2.24	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
衛星電話設備 (常設) ・通信収容架 1	V-2-6-7-9 (2)	盤内の器具 ・衛星電話端末 【A】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.58 鉛直：2.12	加振後に正常 に動作すること
衛星電話設備 (常設) ・通信収容架 2	V-2-6-7-9 (2)	盤内の器具 ・アナログ電話機 【A】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 20Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.58 鉛直：2.19	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
衛星電話設備（常設）（中央制御室待避室） ・アンテナ	V-2-6-7-10 (1)	アンテナ (アンテナ取付架台との取合部を含む) 【B】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上 (X, Z 方向), 17.02Hz (Y 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz (X, Z 方向), 17.02Hz (Y 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 4.35 鉛直 : 2.24	加振後に正常に動作すること
衛星電話設備（常設）（中央制御室待避室） ・通信収容架	V-2-6-7-10 (2)	盤内の器具 ・衛星電話端末 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3.58 鉛直 : 2.12	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
衛星電話設備(常設)(6,7号機共用) ・アンテナ	V-2-6-7-11 (1)	アンテナ (アンテナ取付架台との取合部を含む) 【B】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 11.63Hz(X 方向), 22.37Hz(Y 方向), 11.21Hz(Z 方向)であることを確認。 2. サインビート波加振試験 11.63Hz(X 方向), 22.37Hz(Y 方向), 11.21Hz(Z 方向)における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: 4.38 鉛直: 2.16	加振後に正常に動作すること
衛星電話設備(常設)(6,7号機共用) ・通信収容架	V-2-6-7-11 (2)	盤内の器具 ・衛星電話端末 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: 3.58 鉛直: 2.12	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
無線連絡設備 (常設) ・アンテナ	V-2-6-7-12 (1)	アンテナ (アンテナ取付架 台との取合部を含 む) 【B】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 23.76Hz (X 方向), 23.65Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 23.76Hz (X 方向), 23.65Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平 : 3.54 鉛直 : 2.15	加振後に正常 に動作するこ と
無線連絡設備 (常設) ・通信収容架 1	V-2-6-7-12 (2)	盤内の器具 ・デジタル簡易無 線機 【A】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維 持されていることを確認。	水平 : 3.63 鉛直 : 2.14	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
無線連絡設備（常設） ・通信収容架 2	V-2-6-7-12 (2)	盤内の器具 ・ハンドマイク 【A】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 20Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.58 鉛直：2.19	加振後に正常 に動作すること
無線連絡設備（常設）（中央制御 室待避室） ・アンテナ	V-2-6-7-13 (1)	アンテナ （アンテナ取付架 台との取合部を含む） 【B】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 23.76Hz (X 方向), 23.65Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート加振試験 23.76Hz (X 方向), 23.65Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.54 鉛直：2.15	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
無線連絡設備（常設）（中央制御室待避室） ・通信収容架	V-2-6-7-13 (2)	盤内の器具 ・デジタル簡易無線機 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.63 鉛直：2.14 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・ハンドマイク 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.67 鉛直：2.14 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
無線連絡設備（常設）通信収容架 (6,7号機共用) ・アンテナ	V-2-6-7-14 (1)	アンテナ (アンテナ取付架台との取合部を含む) 【B】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.20 鉛直：2.07	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
無線連絡設備（常設）通信収容架 （6,7号機共用） ・通信収容架	V-2-6-7-14 （2）	盤内の器具 ・デジタル簡易無線機 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.63 鉛直：2.14 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・ハンドマイク 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.08 鉛直：2.14 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備（テレビ会議システム、IP-電話機及び IP-FAX） ・衛星無線通信装置用アンテナ	V-2-6-7-15 （1）	ODU 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：8.02 鉛直：9.95	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備(テレビ会議システム, IP-電話機及び IP-FAX) ・テレビ会議システム用ディスプレイ	V-2-6-7-15 (2)	テレビ会議システム用ディスプレイ 【B】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平: 4.74 鉛直: 2.77	加振後に正常に動作すること
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備(テレビ会議システム, IP-電話機及び IP-FAX) ・テレビ会議システム用カメラ	V-2-6-7-15 (3)	テレビ会議システム用カメラ 【B】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平: 4.64 鉛直: 2.16	加振後に正常に動作すること
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備(テレビ会議システム, IP-電話機及び IP-FAX) ・通信収容架 A	V-2-6-7-15 (4)	盤内の器具 ・VOIP-GW 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平: 3.04 鉛直: 2.07 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 ・合成分配器 【A】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.04 鉛直：2.06 ※下線部が工認記載値	加振後に正常 に動作すること
		盤内の器具 ・ I P M O D E ・ C S C M O D E M 【A】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.04 鉛直：2.05 ※下線部が工認記載値	加振後に正常 に動作すること
		盤内の器具 ・ L 3 スイッチ装置 【A】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.05 鉛直：2.03 ※下線部が工認記載値	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備(テレビ会議システム, IP-電話機及び IP-FAX) ・通信収容架 B	V-2-6-7-15 (4)	盤内の器具 ・ L 3 スイッチ装置 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平 : 3.05 鉛直 : 2.03	加振後に正常に動作すること
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備(テレビ会議システム, IP-電話機及び IP-FAX) ・通信端末収容台①	V-2-6-7-15 (5)	I P - F A X 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が 12.6Hz (X 方向), 15.4Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 12.6Hz (X 方向), 15.4Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平 : 3.01 鉛直 : 2.31 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 ・アナログ電話機 【A】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.05 鉛直：2.10 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・テレビ会議端末 【A】	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.07 鉛直：2.10 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備(テレビ会議システム, IP-電話機及び IP-FAX) ・通信端末収容台②	V-2-6-7-15 (5)	IP-FAX 【A】	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が 12.6Hz (X 方向), 15.4Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート加振試験 12.6Hz (X 方向), 15.4Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平 : 3.01 鉛直 : 2.31	加振後に正常に動作すること
TSC屋外緊急連絡用インターフォン	V-2-6-7-16	TSC屋外緊急連絡用インターフォン 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
5号機TSC屋外緊急連絡用インターフォン子機	V-2-6-7-16	5号機TSC屋外緊急連絡用インターフォン子機 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
原子炉圧力容器温度	V-2-6-7-17	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
フィルタ装置水位	V-2-6-7-18	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
フィルタ装置入口圧力	V-2-6-7-19	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
フィルタ装置水素濃度	V-2-6-7-20	熱伝導式水素検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
フィルタ装置金属フィルタ差圧	V-2-6-7-21	差圧式圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
フィルタ装置スクラバ水 pH	V-2-6-7-22	pH 検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
原子炉補機冷却水系系統流量	V-2-6-7-23	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
残留熱除去系熱交換器入口冷却水流量	V-2-6-7-24	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること




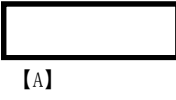



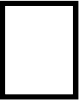





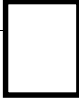

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
復水移送ポンプ吐出圧力	V-2-6-7-25	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
静的触媒式水素再結合器動作監視装置	V-2-6-7-26	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
格納容器内ガスサンプリングポンプ	V-2-6-7-27	サンプリングポンプ 【A】	地震後の動的機能	水平 2 方向と鉛直の 3 方向同時	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含むランダム波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

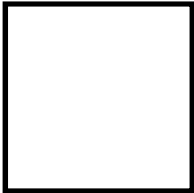















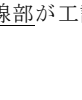
設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
主蒸気管放射線モニタ	V-2-8-1(1)	電離箱 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振中及び加振後に正常に動作すること
燃料取替エリア排気放射線モニタ	V-2-8-1(2)	半導体式 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
原子炉区域換気空調系排気放射線モニタ	V-2-8-1(3)	半導体式 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
格納容器内雰囲気放射線モニタ (D/W)	V-2-8-2-1 -1	電離箱 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること
格納容器内雰囲気放射線モニタ (S/C)	V-2-8-2-1 -2	電離箱 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること
フィルタ装置出口放射線モニタ	V-2-8-2-1 -3	電離箱 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
耐圧強化ベント系放射線モニタ	V-2-8-2-1 -4	電離箱 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)	V-2-8-2-2 -1	電離箱 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)	V-2-8-2-2 -2	電離箱 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること




















設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
バイタル交流電源装置	V-2-10-1-1	盤内の器具 [] 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振中及び加振後に正常に動作すること
非常用ディーゼル発電機制御盤 (1)	V-2-10-1-2 -1-8	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. メーカー試験(カタログ値)により、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具（鉛直は盤 1 面に実装し加振試験を実施） [] 【水平：A】 【鉛直：B】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] (X, Y 方向), [] (Z 方向) の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X, Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] [] (X, Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
AM用直流125V充電器	V-2-10-1-3 -1	盤内の器具  【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. メーカー試験(カタログ値)により,機能が維持されることを確認。	水平:  鉛直: 	加振後に正常に動作すること
AM用動力変圧器	V-2-10-1-4 -4	盤内の器具  【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平:  鉛直: 	加振後に正常に動作すること
AM用MCC	V-2-10-1-4 -5	盤内の器具  【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平:  鉛直:  ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具  【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
AM 用切替盤	V-2-10-1-4 -6	盤内の器具  【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：  鉛直： 	加振後に正常に動作すること
AM 用操作盤 (7A)	V-2-10-1-4 -7	盤内の器具  【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. サインビート波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること










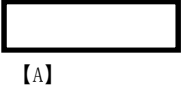





設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
AM 用操作盤 (7B, 7C)	V-2-10-1-4 -7	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
メタルクラッド開閉装置	V-2-10-1-4 -8	盤内の器具（盤 1 面に実装し加振試 験を実施） 【B】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含むランダム波 を入力し、応答波形から共振点が□(X 方向), □(Y, Z 方向) であることを 確認。 2. 正弦波加振試験 □(X 方向), □ (Y, Z 方向) における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振中及び加 振後に正常に 動作すること
パワーセンタ (7C-1, 7D-1, 7E-1)	V-2-10-1-4 -9	盤内の器具（盤 1 面に実装し加振試 験を実施） 【B】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含むランダム波 を入力し、応答波形から共振点が□ (X 方向), □(Y, Z 方向) である ことを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振中及び加 振後に正常に 動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
パワーセンタ (7C-2, 7D-2, 7E-2)	V-2-10-1-4 -9	盤内の器具 (盤 1 面に実装し加振試 験を実施)  【B】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含むランダム波 を入力し, 応答波形から共振点が  (X 方向),  (Y, Z 方向) である ことを確認。 2. サインビート波加振試験  における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平:  鉛直: 	加振後に正常 に動作するこ と
モータコントロールセンタ (7C-1-1, 7C-1-6, 7C-1-7, 7D-1-1, 7D-1-6, 7D-1-7, 7E-1-1A, 7E-1-3)	V-2-10-1-4 -10	盤内の器具  【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が  で あることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平:  鉛直: 	加振中及び加 振後に正常に 動作すること
モータコントロールセンタ (7C-1-2, 7C-1-3, 7C-1-4, 7D-1-2, 7D-1-3, 7D-1-4, 7E-1-1B, 7E-1-2)	V-2-10-1-4 -10	盤内の器具  【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が  で あることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平:  鉛直: 	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
モータコントロールセンタ (7C-2-1, 7D-2-1, 7E-2-1)	V-2-10-1-4 -10	盤内の器具 ・電磁接触器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 4～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. 正弦波加振試験 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30, 32, 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・配線用遮断器 ・過負荷リレー 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 4～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. 正弦波加振試験 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30, 32, 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		盤内の器具 ・補助リレー 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 4~33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. 正弦波加振試験 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30, 32, 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□ ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
5 号機原子炉建屋内緊急時対策 所用電源盤	V-2-10-1-4 -12	盤内の器具 □ 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
5 号機原子炉建屋内緊急時対策 所用交流 110V 分電盤	V-2-10-1-4 -13	盤内の器具 □ 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
直流 125V 充電器	V-2-10-1-4 -14	盤内の器具  【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. メーカー試験 (カタログ値) により, 機能 が維持されることを確認	水平 :  鉛直 : 	加振後に正常 に動作するこ と
直流 125V 主母線盤	V-2-10-1-4 -15	盤内の器具  【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が  で あることを確認。 2. サインビート波加振試験  における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平 :  鉛直 : 	加振後に正常 に動作するこ と
125V 同時投入防止用切替盤	V-2-10-1-4 -16	盤内の器具  【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の振動数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が  で あることを確認。 2. サインビート波加振試験  における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平 :  鉛直 : 	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
直流 125V HPAC MCC	V-2-10-1-4 -17	盤内の器具 <input type="text"/> 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 <input type="text"/> 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
床ドレンライン浸水防止治具 (フロート式治具)	V-2-10-2-4 -1	フロート, ねじ取 付部 【A】	地震後の機能(止 水性能)	水平単独 1 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~50Hz の振動数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が 50Hz 以上で あることを確認。 2. 正弦波加振試験 20Hz における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平: 6.0 鉛直: 6.0	加振後に止水 性能を維持す ること
床ドレンライン浸水防止治具 (スプリング式治具)	V-2-10-2-4 -1	弁体, ねじ取付部 【A】	地震後の機能(止 水性能)	水平単独 1 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~50Hz の振動数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が 50Hz 以上で あることを確認。 2. 正弦波加振試験 20Hz における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平: 6.0 鉛直: 6.0	加振後に止水 性能を維持す ること
床ドレンライン浸水防止治具 (閉止栓)	V-2-10-2-4 -1	閉止栓 【A】	地震後の機能(止 水性能)	水平単独 1 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~50Hz の振動数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が 50Hz 以上で あることを確認。 2. 正弦波加振試験 20Hz における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平: 6.0 鉛直: 6.0	加振後に止水 性能を維持す ること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
床ドレンライン浸水防止治具 (閉止キャップ)	V-2-10-2-4 -1	閉止キャップ 【A】	地震後の機能(止水性能)	水平単独 1 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~50Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 20Hz 以上であることを確認。 2. 正弦波加振試験 20Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：6.0 鉛直：6.0	加振後に止水性能を維持すること
取水槽水位計 ・検出器	V-2-10-2-4 -3(1)	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること
津波監視カメラ	V-2-10-2-4 -4(1)	監視カメラ 【A】	地震後の電氣的機能	水平 2 方向と鉛直の 3 方向同時	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
津波監視カメラ制御架	V-2-10-2-4 -4(2)	盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [] 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
火災感知器	V-2-別添 1 -2	熱感知器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4 鉛直：3	加振後に正常 に動作すること
		煙感知器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4 鉛直：3	加振後に正常 に動作すること
		煙感知器（防爆型） 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：10.00 鉛直：5.00	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		熱感知器（防爆型） 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：10 鉛直：10	加振後に正常に動作すること
		煙感知器（光電分離型） 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：10.00 鉛直：5.00	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		煙吸引式検出設備 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 30.4Hz (X 方向), 33Hz 以上 (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 30.4Hz (X 方向), 33.0Hz (Y 方向), 33.0Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.00 鉛直：3.00	加振後に正常 に動作すること
		煙吸引式検出設備 (防湿型) 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：5.0 鉛直：5.0	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		炎感知器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：12.00 鉛直：6.00	加振後に正常に動作すること
		熱感知カメラ 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 23.76Hz (X 方向), 21.76Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 23.76Hz (X 方向), 21.76Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：12.00 鉛直：6.00	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
火災受信機盤	V-2-別添 1 -3	盤内の器具 ・パソコンパネル 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上 (X 方向), 26.3Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) 以上であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 33Hz (X 方向), 26.3Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平 : 3 鉛直 : 2	加振後に正常 に動作するこ と
		盤内の器具 ・パソコンパネル 以外のもの 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平 : 3 鉛直 : 2	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
ボンベラック	V-2-別添1 -4	二酸化炭素消火設備 容器弁 【A】	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.0 鉛直：3.0	加振後に正常に動作すること
		小空間固定式消火設備 容器弁 【A】	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：10.0 鉛直：10.0	加振後に正常に動作すること
		SLC ポンプ・CRD ポンプ局所消火設備 容器弁 【A】	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：10.0 鉛直：10.0	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		電源盤・制御盤消 火設備容器弁 【B】	地震後の動的機 能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 32.0Hz (X 方 向), 32.6Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方 向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 32.0Hz (X 方向), 32.6Hz (Y 方向), 33.0 (Z 方向) における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平 : 3.10 鉛直 : 2.30	加振後に正常 に動作するこ と
		ケーブルトレイ消 火設備容器弁 【B】	地震後の動的機 能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平 : 3.10 鉛直 : 2.30	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備容器弁 【B】	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 29.4Hz (X 方向), 29.8Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 29.4Hz (X 方向), 29.8Hz (Y 方向), 33.0 Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3.10 鉛直 : 2.30	加振後に正常に動作すること
		5号機原子炉建屋内緊急時対策所消火設備容器弁 【A】	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 1～40Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 40Hz 以上であることを確認。 2. 正弦波加振試験 40Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3 鉛直 : 2	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
選択弁	V-2-別添 1 -5	二酸化炭素消火設備 選択弁 【A】	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.0 鉛直：3.0	加振後に正常に動作すること
制御盤	V-2-別添 1 -7	制御盤 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 20Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 20Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：6.00 鉛直：4.00	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8 m/s ²)	判定基準
循環水系隔離システム ・漏えい検知	V-2-別添 2 -4	電極式水位検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること
タービン補機冷却海水系隔離システム ・漏えい検知	V-2-別添 2 -6	電極式水位検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること

注記*1：加振試験 No は、表 3-1 の No との紐付けを示す。

*2：記載の数値については、加振試験報告書等の記録に基づいている。

*3：機能確認済加速度が異なる器具が取り付けられている盤については、各器具の水平と鉛直の最小値を盤の機能確認済加速度として用いることから、盤の機能確認済加速度として耐震計算書に記載する数値を下線にて示す。

3. 機能維持評価用加速度の設定について

機能維持評価に用いる機能維持評価用加速度は、機能維持評価を要する器具を取り付ける支持構造物（盤、計装ラック、スタンション等）の構造と、加振試験の体系を踏まえ、以下の表 3-1 の考えに基づき設定する。

表 3-1 機能維持評価用加速度の設定について

No		支持構造物の加振試験有無	機能維持評価用加速度	機能確認済加速度	図解番号	具体例
A	支持構造物が剛な設備	無	1.0ZPA（設置床の最大応答加速度）	器具単体の加振試験により確認した加速度	図 3-1	AM 用 MCC 等
B	支持構造物が剛な設備	有	1.0ZPA（設置床の最大応答加速度）	支持構造物含めた加振試験により確認した加速度	図 3-2	サブドレン動力制御盤等
C	支持構造物が柔な設備	無	器具の取付位置に生じる応答加速度	器具単体の加振試験により確認した加速度	図 3-3	使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA 広域) 等

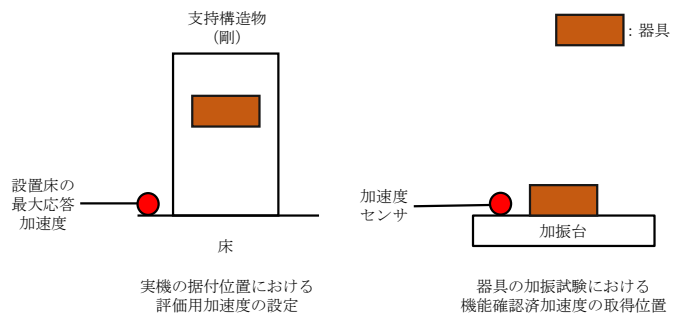


図 3-1 支持構造物が剛な設備かつ器具単体の加振試験を実施した場合

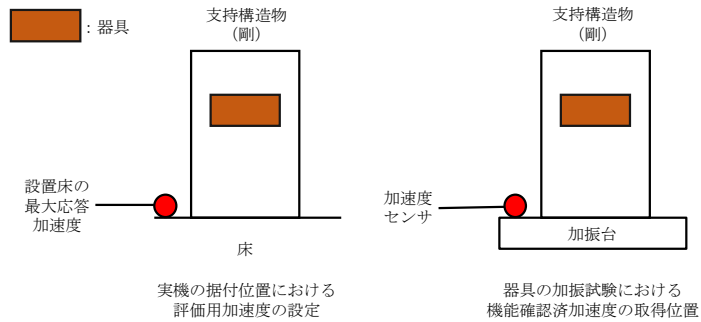


図 3-2 支持構造物が剛な設備かつ支持構造物含めた加振試験を実施した場合

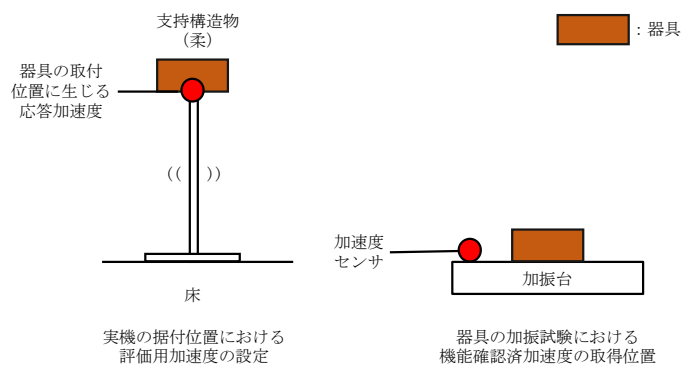


図 3-3 支持構造物が柔な設備かつ器具単体の加振試験を実施した場合